
CAR LOVE LETTER 『Mid night Dreamer 』

YAS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CAR LOVE LETTER 「Mid night Dreamer」

【Nコード】

N7559H

【作者名】

YAS

【あらすじ】

峠を荒らすヴィッツの青年。ヤマアラシと呼ばれる彼が、凄腕のカプチーノと対峙する。（テーマ車種：トヨタヴィッツ（NCP91）、スズキカプチーノ（EA21R））

（前書き）

車と人が織り成すストーリー。車は工業製品だけれども、ただの機械ではない。

貴方も、そんな感覚を持ったことはありませんか？

そんな感覚を「CAR LOVE LETTER」と呼び、短編で綴りたいと思います。

<Theme: TOYOTA Vits (NCP91) / SUZU
KI CAPPUCCINO (EA21R) >

今日も俺は峠に来ている。

今夜はここで知り合ったFDの人と追い掛けっこだ。

さすがに登りの高速セクションじゃ齒が立たないが中腹のテクニカルな所では、まだこっちにも分がある。

みんなは俺の車を所詮ヴィッツと言うけれど、こいつをそんじよそこらのヴィッツと一緒にしてもらっちゃ困る。

こいつはワンメイクレース専用なんだ。

レース用だから何が違うつて訳じゃない。逆にレース用だから、改造も自由じゃないし、いじったハチロクの方が速いかも知れない。けれど、そんな制限された枠内で精一杯の走りをする、そして無制限の相手に一矢報いる事ができれば、それがレースの為の自信にも繋がるんだ。

とは言っても、まだレースには一度しか出たことは無い。

しかもレースは予戦落ち。コンソレーションレースもほとんどブービー。

メチャクチャヘコンで、練習有るのみと思ってるんだが、サーキットに行くにも金が掛る。

なので今はこの峠でいろんな相手と異種格闘技、という感じだ。

もうずいぶん夜も遅い時間になってきた。

FDの人は、明日仕事で早いから、とここで退散。俺は他の車を追

い掛ける事にした。

格上の車にも意外と着いて行ける。最近ではかなり自信も付いてきた。

ヴィッツなんかで峠を掻き回しているもんだから、ヤマアラシなんてあだ名も付いているみたいだ。ちよつと気分がいいね。

今はこんな所で走っているけど、いつかはスーパーGTやフォーミュラニッポンのドライバーになってやる。それが俺の夢であり目標だ。

そんなあだ名だけじゃ満足しないぜ。

次の獲物を探していると、銀色のカプチーノが現れた。

軽じゃなあ。そう思っていたのだが、明らかに登りの加速がおかしい。更に展望台を流しっぱなしで抜けてくじゃないか。こいつはとんだ食わせ者だぜ。

俺が相手なら、退屈はさせないぜ！

カプチーノが戻って来て、再度スタート地点に並ぶのを確認して、素早くヴィッツを後ろに滑り込ませる。

さあ行くぜ！ふやけた走り見せたらケツつつくぜ！

カプチーノもその気の様だ。スタート前にハザードを一回、この峠ではヨロシクって合図だ。

カプチーノと俺のヴィッツは、つづら折れのコースに向かって突撃する。

背中がゾクゾクし、脳の奥の方がチリチリ焦げる様な、そんな興奮を感じながらアクセルを床まで踏みつける。

確かに速いが、やっぱり軽だ。最初的高速セクションは楽なもんだ。

勝負はこの先のテクニカルセクションだ！

しかしこのカプチーノ、車が安定してるといつか、後ろから見てても不安感が全く無い。かなり良い車高調でも入れているに違いない。

バトルは中腹のテクニカルセクションに移行する。

ここからが本当の勝負だぜ！と思った瞬間、カプチーノがオーバースピードでコーナーへ進入する。

やっちまった！俺は目を細め、惨状を直視しないように備えた。

が、カプチーノはそのままの勢いを維持したまま、何事もなかったかのようにコーナーをクリアする。

まさか！

俺がコーナーをクリアした時には、カプチーノは次のコーナーのアプローチに入っている。

ふざけんな！このセクションは俺の十八番なんだ！軽ごときに干切られてたまるか！

今まで手加減していたつもりだったが、いつの間にか本気も本気、ギリギリの走りをしていた。

それでもカプチーノとの差は縮まらず、どんどん開いて行く一方。

頂上の折り返し地点のバスロータリーを、カプチーノはあざやかにドリフトを決め、下りのアタックに移行する。

下りに入っては、最早俺には全く打つ手無し、カプチーノのテールランプを拝む事すらできなかった・・・。

失意のままスタート地点に戻る俺。

カプチーノのドライバーは、車から降りてタバコをくわえてこつち

に手をふっている。

それだけ差を付けられた、って事だ。

俺はそのまま素通りして帰って寝てしまおうとも考えたが、きっとすごいチューニングをしているに違いない。

自信を取り戻す為にも、少しカプチーノの人と話をしてみる事にした。

「元氣いいねえ。結構走ってるのかい？」

歳の頃は40後半位だろうか。カプチーノは人当たりのいいスリムなオジサンだった。

「そつちこそ。メチャクチャ速いじゃないですか。どんなチューニングしてるんですか？」

そう見えるかい？

カプチーノはにやりと笑って、驚愕の種明かしを始めた。

なんとエンジンはどノーマル！しかももうすぐ10万キロだと言うじゃないか！

この車は、少し前に友達が家のリフォーム代金捻出の為に泣く泣く手放した物だと言う。

エンジンも足回りも、その前オーナーから譲り受けた時のままだと言う。

タイヤだけはインチキしてるケドね、と言うカプチーノには、溶けたSタイヤがはめ込まれていた。

自分のホームコースで格下の車に負けたのが悔しくて仕方がない。その気持ちを俺はカプチーノにやんわりと投げ掛けてみた。

すると、良くも悪くも、元氣過ぎなのさ。もう少し落ち着いて走ればいいんじゃないかな、とカプチーノは答える。

カプチーノも若かりし頃、モータースポーツで名を馳せようと、それこそ競技と名の付くものには出まくったそうだ。

そんな経験もあるから、多少は車を転がす事が出来る様になったと言う。

モータースポーツでの思い出話もいくらかしてくれた。

ジムカーナの事や、ダートラやラリー、ワンメイクレースも走った事があると。

しかし成績はさほど奮わず、資金も苦しくなり、いつしか子供が生まれ、家を構え、モータースポーツなどと言っている場合じゃなくなったという。

この歳になって、やっと生活にも余裕が出て来て、友達のお下がり位であれば、オモチャを買ってもらえる許可が降りた訳だ。晩酌の本数半分が条件でね。

昔は誰よりも速く、それだけを求めて競技に出ていたけれど、今は違う車の楽しみ方をしている、と。

速さこそ全て。そう思っている俺にとって、こんなごたくは聞き入れられない話だった。

だがこの人は現にこの車で俺より圧倒的に速い。ものすごくモヤモヤした気分だ。

俺のそんな態度を汲んでくれたのか、カプチーノはもう一つ口を開いた。

「俺は夢を途中で投げ出しちまったんだ。だが、君にはまだまだ夢を追いつける時間もエネルギーも、有るんじゃないかな。」

少しだけ気が楽になった。

俺がこの人と同じになると言う訳じゃない。

俺は俺のやり方でやって行けばいいんだ。

「さて、もちろんもう一本行くだろ？」

カプチーノはまたにやりと笑みを浮かべた。

翌日俺は、あまりの寝不足で学校をサボった。

モソモソと昼過ぎに起き、パンをかじりながら昨日の事を思い出していた。

その後カプチーノとは会うことはなかった。あれは夢だったのか？

だが、バスロータリーの細い二筋のブラックマークと、俺の心にしっかりと焼き付けられたあの人の走りが、現実であると証明している。

今日も俺は、峠に来ている。

夢と現実の間を漂いながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7559h/>

CAR LOVE LETTER 「Mid night Dreamer」

2010年10月10日07時14分発行